

平成24年(ワ)第3671号外 大飯原子力発電所差止等請求事件

原告 竹本 修三 外1962名

被告 国 外1名

証 拠 説 明 書

(第47準備書面関係)

2018年(平成30年)3月27日

京都地方裁判所 第6民事部合議ろA係 御中

原告ら訴訟代理人

弁 護 士 出 口 治 男

同 渡 辺 輝 人
外

原告らは、下記のとおり証拠説明をします。

記

甲号証	証拠の標目 (原本・写しの別)	作成年月日	作成者	立証趣旨
429	1026年の万寿津波 (Man-ju Tsunami in 1026) 写		大飯原発差止京都訴訟原告団長 (京都大学名誉教授) 竹本修三	1062年の万寿津波を考慮すると、大飯原発に巨大な津波が襲来する可能性があること。
430	科学 vol.86 No.7 最大クラスではない 日本海「最大クラス」の津波—過ちを糾さないままでは「想定外」の災害が再生産される 写	2016年7月	東京大学名誉教授 島崎邦彦	日本海側の津波の評価が過小評価であること等
431	J.of Jpn.Landslide Soc.Vol.41 No.5 すべりに伴う物質の移動と変形 第5回 海底地すべり 写	2005年	産業技術総合研究所地質情報研究部門 池原研	海底地すべりのメカニズム等

以上